

山梨県韋崎市発掘調査報告書

山梨県韋崎市

Kamiyokoya SITE No.3 point

上横屋遺跡第3地点

藤井町北下条字上横屋433番地地点

宅地分譲地内道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

韋崎市教育委員会  
財団法人山梨文化財研究所

山梨県韮崎市

Kamiyokoya SITE No.3 point

# 上横屋遺跡第3地点

藤井町北下条字上横屋 433 番地地点

宅地分譲地内道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

韮崎市教育委員会  
財団法人山梨文化財研究所

## 例　　言

1. 本書は、山梨県韮崎市藤井町北下條字上横屋 433 番地に所在する、上横屋遺跡第 3 地点の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宅地分譲地造成工事に先立って実施されたもので、有限会社鈴屋リネンサプライの委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が、発掘調査および整理作業にあたった。
3. 本書の執筆・編集は宮澤公雄が行った。
4. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の機関に委託した。  
基準点・航空測量　フジテクノ株式会社
5. 本書に関する記録図面・写真・出土遺物等は、韮崎市教育委員会が保管している。
6. 本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多人なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。  
韮崎市教育委員会、閔問俊明、山下孝司
7. 参考文献は、執筆者順に第 1 章末にまとめて記載した。

## 凡　例

1. 遺跡全体におけるX・Y座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅲ系のX = - 30.410.000, Y = - 4.750.000(北緯35度43分33秒、東経138度26分51秒)を基点(X = 0, Y = 0)とした座標値である。また、各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。

なお、真北方向角は0度1分50秒である。

2. 遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

### 遺構

竪穴住居跡 — 1/40

掘立柱建物跡 — 1/40

土 坑 — 1/20

ピット — 1/20

### 遺物

土 器 — 1/3, 1/4

石製品 — 1/2

3. 遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。



石

4. 遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの方向は北位を基準としたものである。

●弥生土器壺・甕 ■弥生土器坏系 △弥生土器鉢 ○土師器壺・甕 □土師器坏系  
▲須恵器壺・甕 ×石製品

5. 遺物図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。



赤彩土器



須恵器

6. 遺構同一図版中の標高は、原則として統一している。

7. 遺構図版中および遺物観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修 1990「新版 標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄)による。

8. 本書で用いた地図は、姫崎市発行の姫崎市管内図(1:10,000, 1:2,500)である。

# 目 次

## 例 言

## 凡 例

第1章 序 説 .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 調査経過 .....	1
第3節 調査の方法 .....	1
第4節 遺跡概要 .....	3
第5節 基本層序 .....	3
第2章 遺跡の立地と環境 .....	5
第1節 遺跡の地理的位置 .....	5
第2節 遺跡の歴史的環境 .....	5
第3章 遺構と遺物 .....	9
第1節 積穴住居跡 .....	9
第2節 挖立柱建物跡 .....	10
第3節 土坑・ピット .....	11
第4章 まとめ .....	14
参考文献 .....	16
おわりに .....	17

# 表目次

第1表 土坑・ピット一覧表 .....	11
第2表 出土遺物観察表（土器） .....	12
第3表 出土遺物観察表（石製品） .....	13

## 図版目次

第1図	遺跡全体図	2
第2図	遺跡基本土層	4
第3図	遺跡の位置と周辺の遺跡	6
第4図	上横屋遺跡調査区位置図	7
第5図	1・2号住居平面図	18
第6図	3号住居平面図	19
第7図	4号住居平面図	20
第8図	5号住居平面図	21
第9図	6号住居平面図	22
第10図	1号掘立柱建物平面図	23
第11図	1号掘立柱建物遺物分布図	24
第12図	土坑平面図	25
第13図	土坑・ピット平面図	26
第14図	出土遺物（1）	27
第15図	出土遺物（2）	28

## 写真図版目次

図版1	1 A区全景	3 同（2）
	2 1号住居	4 同（3）
	3 同 遺物出土状況（1）	5 1号掘立柱建物
	4 同（2）	6 8号土坑
	5 2号住居	7 9号土坑
	6 同 遺物出土状況（1）	8 10号土坑
	7 同（2）	図版4 1 11号土坑
	8 3号住居	2 1号ピット
図版2	1 4号住居	3 2号ピット
	2 同 遺物出土状況（1）	4 5号ピット
	3 同（2）	5 造構検出作業
	4 同（3）	6 排水溝掘削作業
	5 5号住居	7 造構調査状況（1）
	6 同 遺物出土状況（1）	8 同（2）
	7 同（2）	図版5 出土遺物（1）
	8 同（3）	図版6 出土遺物（2）
図版3	1 6号住居	図版7 出土遺物（3）
	2 同 遺物出土状況（1）	

# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

蔚崎市藤井町は、塩川によって形成された平坦地と河岸段丘上の台地とからなり、平坦地は水田地帯となっているが、近年急速な宅地化が進行している。有限会社鈴屋リネンサプライが事業を進めていた宅地分譲地造成工事予定地内は周知の上横屋遺跡内にあたり、蔚崎市教育委員会では2006年7月10日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺構の一部および遺物が確認され、遺跡の存在が確実となったことから発掘調査が必要であると判断した。

2006年8月に、蔚崎市教育委員会および事業主体である有限会社鈴屋リネンサプライより財団法人山梨文化財研究所に対し、上横屋遺跡の発掘調査の依頼があり三者で協議した結果、協定ならびに委託契約を結んで発掘調査および整理作業にあたることとした。

宅地分譲地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を有限会社鈴屋リネンサプライ、蔚崎市教育委員会、財団法人山梨文化財研究所の間において締結し、委託者有限会社鈴屋リネンサプライ、受託者財団法人山梨文化財研究所の間において委託契約を結んで、発掘調査業務にあたった。

### 調査体制

調査主体 財団法人山梨文化財研究所

調査担当者 宮澤公雄 財団法人山梨文化財研究所

発掘調査参加者 小池孝雄、小菅春江、清水裕子、武井美智子、中川博子、中川美治、萩原忠、平賀早苗

整理作業参加者 斎藤ひろみ、須田泰美、田中真紀美、林紀子

## 第2節 調査経過

- 8月10日 表土剥ぎ開始
- 8月17日 調査事務所設置・機材搬入
- 8月19日 調査区内に排水溝開削
- 8月23日 遺構確認作業開始
- 8月25日 遺構調査開始
- 8月28日 1、2号住居調査終了、B区調査終了
- 9月4日 5号住居調査開始
- 9月5日 土坑調査開始
- 9月11日 調査終了・調査事務所撤収

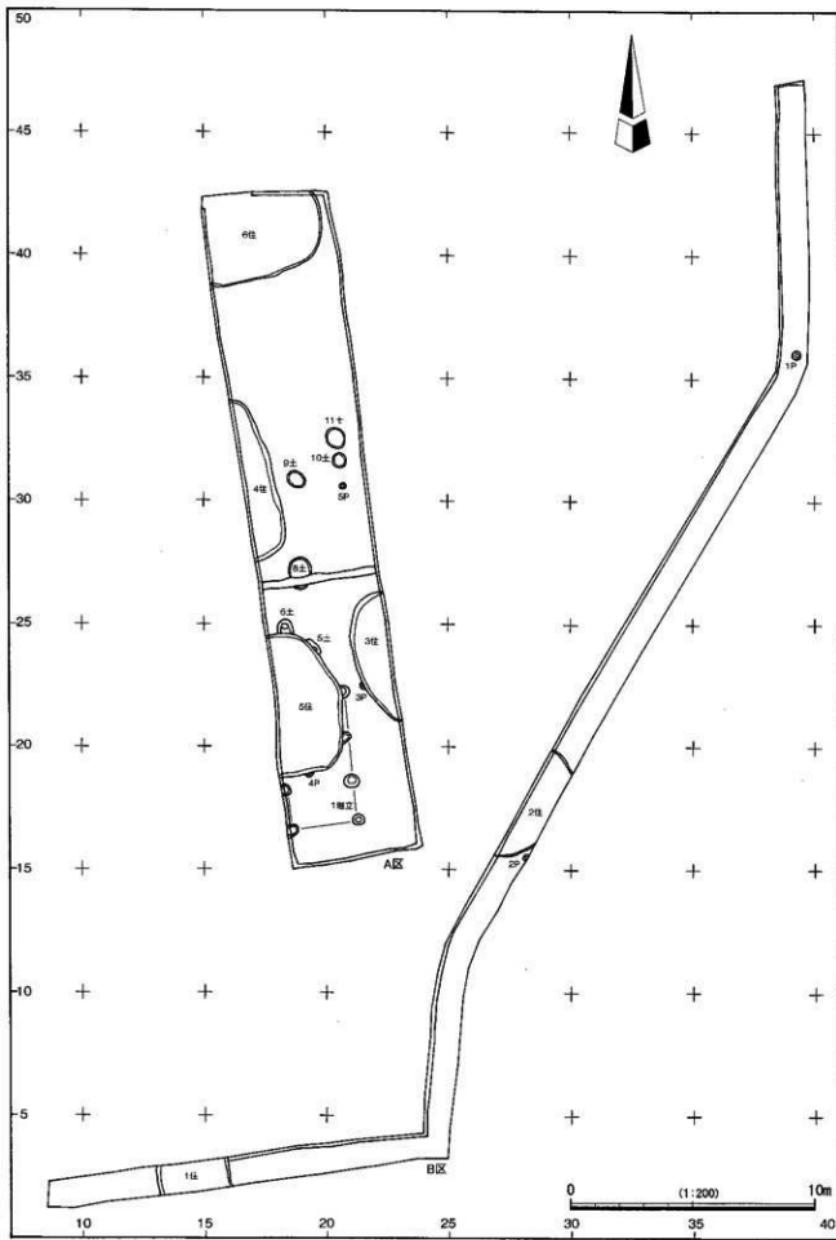
## 第3節 調査の方法

調査区設定の後、重機により表土を除去し、引き続き人力による遺構確認作業を行った。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次調査を行ったが、一部新旧関係が不明な重複した遺構については同時に調査を行い、土層断面観察により新旧関係の決定を行った。

出土した遺物は遺構内のものについてはずべて、遺構外出土のものについても原位置が明らかなものは光波測量機器を用いて個別に取り上げを行い、遺物微細図はデジタルカメラによる測量を実施した。遺構図の図化は、光波測量器による測量とデジタルカメラによる測量を併用した。

測量に用いた機器およびシステムは、以下の通りである。

光波測量機器 TOPCON GPS III



第1図 遺跡全体図

コンピュータ SHARP コベルニクス

取り上げ・図化システム 株式会社コンピュータ・システム製 SITE IV

デジタルカメラ図化システム 株式会社コンピュータ・システム製 SITE 3D

発掘調査は、開発予定地内の外周擁壁工事ならびに中央の道路部分の調査を行い、宅地となる部分については開発行為が及ぼないことを前提として、調査を行っていない。

便宜上、調査区中央の道路敷設部分をA区、外周擁壁設置部分をB区として調査を実施した。

重機による表土剥ぎ終了後、調査区全体を被うように国土座標にあわせて南北方向をX軸、東西方向をY軸とするメッシュをかけ、南西隅を基点とした。世界測地系座標 X = -30410.000m、Y = -4,750.000m を原点 (X = 0、Y = 0) とし、調査区内にグリッドを設定した。

調査では、光波測量器による遺物の取り上げを行ったため、東西、南北とも 1 m のグリッドとして両軸とも整数を用いて表現した。

また、調査時は周辺水田に水を蓄えていたため、調査区内は湧水がひどく、止むを得ず調査区内に排水路を掘削し、調査を実施した。

## 第4節 遺跡概要

本遺跡は、塩川右岸の氾濫原の通称「藤井平」と呼ばれる平坦地に位置し、現在は水田が営まれている地域にある。

上横屋遺跡は遺跡範囲が広く、東西 200 m 前後、南北 400 m ほどとされており、過去において 2 回にわたり開発に伴う発掘調査が実施され、弥生時代後期から平安時代に至る集落跡が発見されている。

今回の発掘調査は分譲住宅建設に先立つ事前調査で、開発地区の東側から南側に設置する擁壁および中央部分に敷設される道路部分のみの調査を実施した。

そのため、調査面積は 246 m<sup>2</sup> にとどまる。

狹小な調査面積にもかかわらず、今回の発掘調査の結果、弥生時代後期の堅穴住居跡 4 軒、古墳時代前期の堅穴住居跡 1 軒、古墳時代後期の堅穴住居跡 1 軒、弥生時代頃の掘立柱建物跡 1 棟、土坑 6 基、ピット 5 基などが発見された。

弥生時代の堅穴住居跡は調査区の中央付近から北側にかけて分布しており、古墳時代の堅穴住居は南側に位置している。

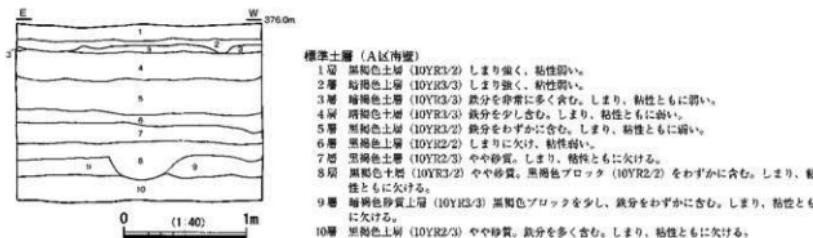
掘立柱建物跡は 1 間 × 4 間の柱穴列が確認されたが、調査区外に延びている可能性もあり、本来の規模を明らかにすることは出来なかった。

## 第5節 基本層序

本遺跡は、河川の氾濫原に位置しており、地形は南に緩やかに傾斜する。周辺一帯は現在、水田および宅地となっており、南へ下降する雑壇造成地形となっている。そのため、調査地点によって表土から遺構確認面までの深さは異なっており、0.3 m から 1 m ほどであった。

第 1・2 層が表土ならびに水田の耕作土となる。第 3 層は水田の床土となり、第 4 層は鉄分を含んだ暗褐色土層である。その下層には、黒褐色を基調としたやや砂質の上層が堆積している。調査区北側などの遺構確認面の浅い地点などは、第 5~7 層がみられないところもあった。

本調査区においては、8 層が遺物包含層となり、暗褐色砂質土層の第 9 層が地山土で遺構確認面となる。湧水により調査は困難を極めたが、遺構の確認作業は比較的容易であった。



第2図 遺跡基本土層

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 遺跡の地理的位置

本遺跡の所在する並崎市は、山梨県の北西部、甲府盆地の北西部に位置している。東西にやや長い市域は、河川の開拓などによって複雑な地形を呈しており、大きく3地域にわけることができる。

市域の東側は、茅ヶ岳の南西麓地域にあたり、緩やかな南北斜面を利用して、果樹栽培を中心とした農業が行われている。市域の西側は、南アルプス連峰、巨摩山地が連なり、市域を貫流する釜無川右岸の河岸段丘上に展開する地域である。

市域の中央部は、釜無川と塩川が南北に貫流している。八ヶ岳山麓から延びる並崎岩屑流で構成された台地が、この両河川によって浸食された並崎台地と塩川の氾濫原にあたる低地とからなる。並崎台地は、侵食によるほぼ垂直に切り立った断崖が形成されており、その長さから七里岩と呼ばれている。低地の氾濫原は、完新世段丘の形成によって藤井平と呼ばれる肥沃な穀倉地帯が形成されており、「藤井五千石」などともいわれている。

『甲斐国志』古跡部第十には、

穴山ヨリ南小田川・駒井・坂井・中条・下条・菲崎等ノ數村ヲ里人ハ藤井庄五千石ト云其田音ユニ名アリ慶長古高六千百余石後又千五六百石ヲ増ス西ハ片山新府ノ台、東ハ塩川ヲ帶ビ北ハ桐樹川ヲ界ヒトシ藤井渠ヲ穿ツ水利自在ヲ得テ夏時水田トシ冬陸田トナス且諸村ノ末ニ居リ余水聚米ルヲ以テ田地殊ニ肥鏡ナリ

と記されており、当時から著名な穀倉地帯であったことがわかる。

本遺跡は、その藤井平のほぼ中央、標高372m付近に立地している。

周辺では現在も大規模な水田経営が盛んに行われている。

### 第2節 遺跡の歴史的環境

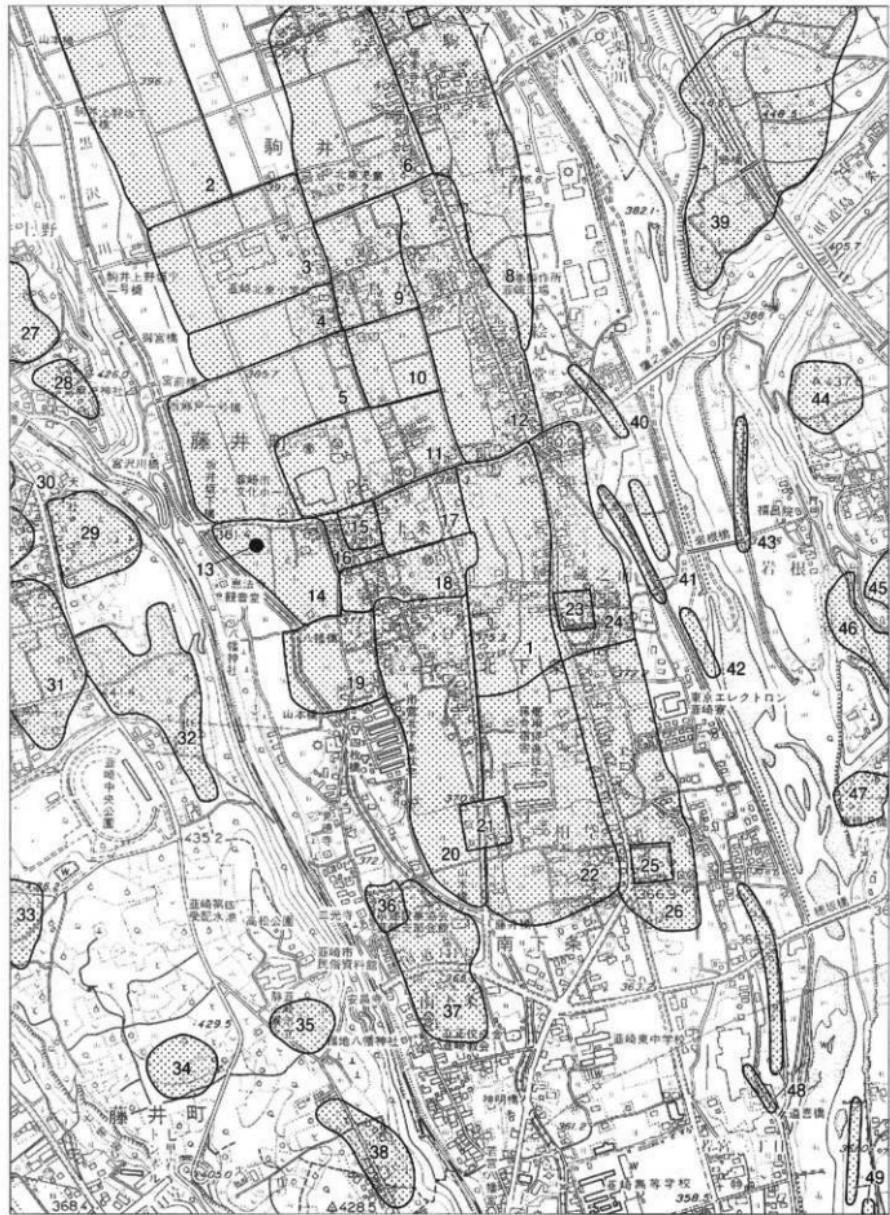
肥沃な穀倉地帯である藤井平には、繩文時代から古代にかけて多くの遺跡が分布しており、とりわけ弥生時代後期から平安時代にかけての遺跡が濃密に分布している。

また、本地域は、圃場整備事業、公共施設建設、民間開発などに伴い、多くの発掘調査が実施してきた。その結果、本地域における遺跡のあり方が解明されつつある。

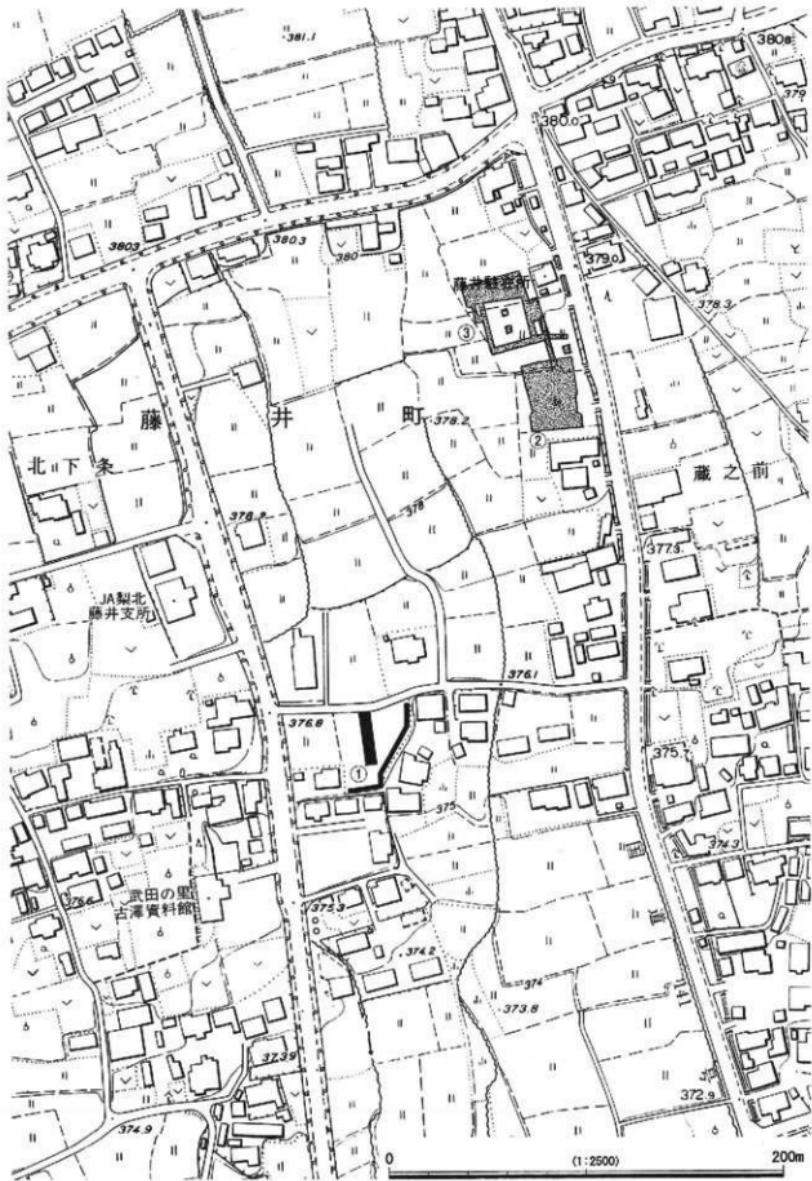
弥生時代の遺跡としては、本遺跡をはじめとして、宮ノ前遺跡（第3回3）、下横屋遺跡（同22）、後田堂ノ前遺跡（同17）、後田第2号遺跡（同18）などが知られている。宮ノ前遺跡の微高地縁辺部の埋没田河道からは、弥生時代前期中葉から後葉に並行する水田跡が発見されており、東日本でも最古の水田跡とされている。本遺跡の南側に隣接する下横屋遺跡からは、後期の住居跡やガラス小玉を嗣承した土器棺墓などが発見されている。

藤井平における古墳時代前期の遺跡は希少となるが、七里岩台地上には大規模な集落遺跡である坂井南遺跡があり、方形周溝墓群も隣接して営まれている。古墳時代後期の遺跡としては本遺跡も含め、坂井堂ノ前遺跡（同11）、後田堂ノ前遺跡、後田第2号遺跡などが知られ、本遺跡周辺にまとまって分布している。上横屋遺跡の第1次調査では、竪穴住居15軒が発見されており、そのうちの1軒からは金環が2点出土している。当該期の遺跡が濃密に分布する西端には、後期古墳である火雨塚古墳が所在しており、奥津城であったことが考えられる。

奈良・平安時代になると、宮ノ前遺跡、堂ノ前遺跡（同10）、後田堂ノ前遺跡、坂井堂ノ前遺跡、後田第2号遺跡、三宮地遺跡（同14）、中田小学校遺跡など、平坦面全域に集落遺跡が広がりをみせるようになる。そのうち宮ノ前遺跡では、竪穴住居400軒以上、掘立柱建物50棟以上が発見されており、正倉と思われる大型倉庫も検出されている。出土遺物にも円面鏡や三彩陶器などがあり、巨麻郡衙の一部ないし隣接する遺跡だと考



第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第4図 上横屋遺跡調査区位置図

えられている。

数々の発掘調査によって、この地域が弥生時代以降、水田經營を生業としながら、連続と集落を営んできたことが理解され、巨麻郡の中で重要な役割を果たしてきた地域であることが明らかとなっている。

上横屋遺跡は、本調査も含めこれまでに3回の発掘調査を実施している。第1次調査は、店舗建設に先立って調査が行われたもので、本調査区より150mほど北西の位置に当たる（第4図②）。弥生時代後期の竪穴住居跡6軒、古墳時代後期の竪穴住居跡15軒、奈良・平安時代の窓穴住居跡3軒、古墳時代以降の掘立柱建物跡3棟などが発見された。また、1号土坑からは青銅製鏡なども出土している。

第2次調査では、第1次調査の北隣を店舗建設に先立って調査を実施し、古墳時代後期の竪穴住居7軒、平安時代の窓穴住居6軒などが発見された。そのうち古墳時代後期の10号住居跡からは、専用繩が2点出土するなどしており、鍛冶遺構が調査されている。（第4図③）。

#### 遺跡一覧（番号は第3図に対応）

1 上横屋遺跡	25 相笠界址
2 宮ノ前第2遺跡	26 批杷塚遺跡
3 宮ノ前遺跡	27 西御門遺跡
4 北後田遺跡	28 西御門第3遺跡
5 後田遺跡	29 坂井丸山遺跡
6 宮ノ前第5遺跡	30 坂井遺跡
7 駒井氏屋敷跡	31 坂井南大原遺跡
8 駒井砂宮神遺跡	32 堂坂上遺跡
9 宮ノ前第3遺跡	33 岩上滝坂遺跡
10 堂ノ前遺跡	34 滝坂遺跡
11 坂井堂ノ前遺跡	35 藤井坂上遺跡
12 宮ノ前第4遺跡	36 三光寺界址
13 火雨塚古墳	37 山影遺跡
14 三宮地遺跡	38 滝坂第2遺跡
15 北下條壙塀	39 日之城跡
16 北下條後田遺跡	40 駒井砂宮神堤
17 後田堂ノ前遺跡	41 藏之前堤
18 後田第2遺跡	42 建石鳥堤
19 榎田遺跡	43 岩根前堤
20 北下條殿田遺跡	44 神ノ木遺跡
21 殿田屋敷跡	45 稔坂上ノ原遺跡
22 下横屋遺跡	46 ゴリノ木遺跡
23 藏之前界址	47 植現沢遺跡
24 宮木遺跡	48 藤井下河原堤
	49 植の木堤

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 壇穴住居跡

#### 1号住居

##### 遺構の概要（第5図）

調査区の南西隅、 $X = 14$ 、 $Y = 4$  グリッドに位置する。主軸をほぼ南北にとる方形プランを呈するものと思われるが、南北はいずれも調査区外になり正確なプラン、規模は不明。現状で東西 2.95 m、深さは東西とも 0.22 m ほどを測る。湧水がひどく、床面の認定も困難ということもあり、柱穴などの付属施設は確認されていない。

##### 遺物出土状況（第5図）

湧水により、遺物の検出も困難を極めたが、土師器、須恵器が 15 点ほど出土している。

##### 出土遺物（第14図）

第14図1は土師器壺で、体部外面に稜を有する。同2は土師器壺底部破片である。弥生時代後期のものと思われ、本住居に伴う遺物ではない。

#### 2号住居

##### 遺構の概要（第5図）

調査区の中央よりやや東側、 $X = 28$ 、 $Y = 18$  グリッドに位置する。小判型を呈するものと思われるが、東西とも調査区外になり正確なプランおよび規模は不明。現状で南北 4.82 m、深さは東側で 0.44 m ほどを測る。湧水の影響もあり、炉、柱穴などの付属施設は確認されていない。

##### 遺物出土状況（第5図）

弥生土器が散在的に 10 点ほど出土しているだけである。北西側の調査区境界付近からは、比較的大形の壺破片が出土している。

##### 出土遺物（第14図）

第14図3は高環の脚部で内外面ともに赤色塗彩されている。同2は台付壺脚部破片。同3は壺。

#### 3号住居

##### 遺構の概要（第6図）

調査区のほぼ中央、 $X = 24$ 、 $Y = 22$  グリッドに位置する。南北に主軸をとる小判型を呈するものと思われるが、住居東側は調査区外に延びており、規模等は不明である。現状で南北 5.22 m、深さ 0.37 m を測る。炉や柱穴等の付属施設は確認されていない。

##### 遺物出土状況（第6図）

弥生土器の壺、高環などが 15 点ほど出土しており、西側の壁寄りにやや大きな破片が集中している。

##### 出土遺物（第14図）

第14図6は高環で、直線的に外傾した壺体部をもつ。同7から 10 は壺の口縁部ないし底部資料。

#### 4号住居

##### 遺構の概要（第7図）

調査区の中央よりやや北側、 $X = 31$ 、 $Y = 17$  グリッドに位置する。東壁より 1 m ほどが調査できたのみで、ほとんどは調査区外にあたる。東側壁が直線的となることから、隅丸方形を呈するものと思われる。現状で南北 6.6 m、深さ 0.3 m ほどとなる。柱穴などの付属施設も検出されていない。

##### 遺物出土状況（第7図）

調査が出来た範囲において、中央付近から南側にかけて壺の口縁部から底部破片がまとめて出土してい

る。

#### 出土遺物（第14図）

第14図11は土師器鉢、同12は有段口縁壺の口縁部資料、口縁部に棒状浮文が添付されていたがいずれも剥落している。同14も有段口縁壺であるが、内外面とも細かいハケで調整されている。

#### 5号住居

##### 遺構の概要（第8図）

調査区の中央よりやや西側、X = 22、Y = 19グリッドに位置する。1号掘立柱建物跡、5、6号土坑、4号ピットと重複しており、すべての遺構を切る。住居の北側のプランは小判型を呈するが、南側は隅丸方形のような形態となる。西側は調査区外に位置するため、正確なプラン、規模は不明。現状で南北5.8m、深さ北側で0.3m、南側で0.2mを測る。住居の半分ほどを調査することが出来たが湧水の影響もあり、が、柱穴などの付属施設を確認することは出来なかった。

##### 遺物出土状況（第4図）

住居内からは散在的に土器が出土しているが、南側に壺がまとまって発見された。とくに2点の壺の口縁部は床面直上より出土しており、本住居にともなうものと考えられる。

#### 出土遺物（第14図）

第14図15、16は壺口縁部資料で、いずれも口唇部に刻目をもつ。同18は壺頸部で、内面に輪積痕を明瞭に残す。第15図1～5は壺底部資料。

#### 6号住居

##### 遺構の概要（第9図）

調査区の北側、X = 41、Y = 17グリッドを中心位置する。住居の北、西側とも調査区外に延びるが、平面プランは小判型を呈するものと思われる。現状で東西4.88m、南北3.72m、深さ0.2mほどを測る。炉、柱穴などの付属施設を確認することは出来なかった。

##### 遺物出土状況（第9図）

住居内における遺物の出土量はわずかで、10点ほどを数えるに過ぎない。住居東壁寄りで小型壺、石庖丁などが発見された。

#### 出土遺物（第15図）

第15図6は小型の壺。胴上半部に2段の櫛描波状文、口唇部に細かい刻目をもつ。同7は有孔の石庖丁。孔の部分から半分ほどを欠損する。

## 第2節 掘立柱建物跡

#### 1号掘立柱建物跡

##### 遺構の概要（第10図）

調査区の中央よりやや南側、X = 20、Y = 19グリッドを中心に位置する。6号竪穴住居跡と重複関係にあり、6号住居跡に切られている。

当初、土坑として調査を始めたため、1～4、7、12号土坑がこれらにあたる。現状で東西1間、南北4間の柱穴配置が確認できた。西側は調査区外にあたるため、さらに西へ広がりをもつ可能性もある。柱穴は0.5～0.6mの径をもち、いずれも掘り込みは浅く0.1～0.2mほどである。

柱間は東西が2.8mほど、南北が1.7m前後である。

##### 遺物出土状況（第11図）

柱穴の覆土中より4点ほどの弥生土器が出土しているが、図示できるようなものはない。

### 第3節 土坑・ピット

本遺跡からは、6基の土坑と5基のピットが発見されている。土坑とピットの区分は、径30cmほどを境界として大きいものを土坑、小さいものをピットとした。ただし、厳密に区分したものではない。個々の遺構のデータについては、第1表にまとめたのでそちらを参照されたい。

#### 土坑

遺構の概要（第1表・第12～13図）

土坑は、A区の中央付近にまとまって発見された。そのうち8号土坑からは挙大の蝶が出土している。土坑からの出土遺物は多くはなく、弥生土器が数点出土したのみで時代を特定できるような遺物の出土状況を示すものはない。

#### ピット

遺構の概要（第2表・第13図）

ピットはA区から3基、B区から2基発見された。出土遺物も、4号ピットから弥生土器が1点出土したのみで図示も出来ず、遺構の時代を特定することはできないが、弥生時代後後に属する5号竪穴住居跡に切られていることから、それ以前の所産であると考えられる。

第1表 土坑・ピット一覧表

遺構名	グリッド	形態	上端		深さ	主物	出土遺物	備考
			長径×短径	高さ×知径				
5号土坑	23-19	不整	0.81×(0.28)	0.18×(0.12)	0.15	N=49° -W		
5号土坑	24-18	不整	(0.64)×0.62	(0.23)×0.12	0.23	N=2° -W	弥生土器：1点	5号住居に切られる
5号土坑	27-19	掘り	12.6×0.89	11.8×0.79	0.14	W=2° -W	弥生土器：1点	5号住居に切られる
5号土坑	30-18	掘り	0.79×0.61	0.70×0.52	0.06	V=52° -W		
10号土坑	31-20	掘り	0.59×0.41	0.51×0.47	0.06	W=7° -W		
11号土坑	32-20	掘り	0.87×0.75	0.79×0.67	0.06	W=35° -W		
1号土坑	36-39	不整円	0.36×0.34	0.18×0.13	0.10			
2号ピット	15-28	不整	0.23×(0.19)	0.16×(0.15)	0.28			東側画面外
3号ピット	22-21	不整	0.30×(0.23)	0.15×(0.15)	0.10			3号住居に切られる
4号ピット	18-19	不整	0.35×(0.22)	0.23×(0.17)	0.08		弥生土器：1点	5号住居に切られる
5号ピット	30-29	円	0.25×0.25	0.14×0.13	0.06			

## 第2表 出土遺物觀察表（土器）

1. 法事、日課文化遺物である。

2. 種類は、圓が洗いもの、輪郭のうちものをを示す。またこれらの長短は圓によるものである。

遺物番号	出土地名	形態	器形	口沿	底	外縁	内縁	内底	外底	色	圖	参考			
												やや赤	白・墨・赤色斑子、尖端	白	70.70 外縁基盤
1 男作田 14-1	土師	坪	ナゲヌ、ナデ	12.5	-	4.3	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	11.墨・薄青・灰(10187.5)/~ 10184.1) 外・内底輪~板(10185.2)~ 2.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
1 男作田 14-2	作田	盆	ハケヌ、ナデ	17.0	(2.6)	ナゲヌ、ナデ	ナゲヌ、ナデ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	11.墨・薄青・灰(10187.5)/~ 10184.1) 外・内底輪~板(10185.2)~ 2.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
2 月丘野 14-3	作生	盆底	ヘウミガタ、ホル	8.0	(7.6)	ナゲ	ヘウミガタ、ホル	ヘウミガタ、ホル	ヘウミガタ、ホル	ヘウミガタ、ホル	ヘウミガタ、ホル	白・墨・赤色斑子、尖端	白・墨・赤色斑子、尖端	白・墨・赤色斑子、尖端	90.~
2 月丘野 14-4	作生	竹籠型	ナゲ	-	(6.8)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10185.1) 外・内底輪~板(10185.2)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
2 月丘野 14-5	作生	盆	ナゲ	23.6	-	16.6	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.4) 外・内底輪~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
3 月丘野 14-6	作生	盆	ナゲ	[11.4]	[4.7]	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.4) 外・内底輪~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
3 月丘野 14-7	作生	盆	ナゲ	[18.9]	-	13.6	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.4)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
3 月丘野 14-8	作生	盆	ナゲ	-	6.9	(6.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.3)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
3 月丘野 14-9	作生	盆	ナゲ	-	7.21	4.0	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.1)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
3 月丘野 14-10	作生	盆	ナゲ	-	(3.5)	ナゲ	ミガキ	輪郭底鉢文	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10184.1)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
4 月作田 14-11	土師	盆	ナゲ	12.2	3.7	8.0	2.ガタ、ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10187.2)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
4 月作田 14-12	土師	盆	ナゲ	[22.9]	-	(9.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10187.2)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
4 月作田 14-13	土師	盆	ナゲ	-	7.5	(3.5)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10187.2)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
4 月作田 14-14	土師	盆	ナゲ	-	(30.0)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10187.2)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
6 月作田 14-15	作生	盆	ナゲ	-	18.8	-	66.2	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月作田 14-16	作生	盆	ナゲ	[18.1]	-	(4.5)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月作田 14-17	作生	盆	ナゲ	[14.6]	-	(2.8)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10185.1)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月作田 14-18	作生	盆	ナゲ	-	(6.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10185.1)~ 1.5185.1)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月丘野 14-19	作生	盆	ナゲ	-	(3.0)	(3.8)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月作田 14-20	作生	盆	ナゲ	-	[7.8]	(3.5)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月作田 14-21	作生	盆	ナゲ	-	[5.6]	(2.9)	ナゲ	ミガキ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月作田 14-22	作生	盆	ナゲ	-	[6.4]	(2.6)	ナゲ	ミガキ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月作田 14-23	作生	盆	ナゲ	-	[6.0]	(1.9)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
6 月作田 14-24	作生	盆	ナゲ	-	[1.4]	5.5	10.1	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月丘野 15-6	作生	盆	ナゲ	-	[12.0]	(3.7)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月丘野 15-7	作生	盆	ナゲ	-	[18.6]	-	(7.0)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月丘野 15-8	作生	盆	ナゲ	-	[18.5]	-	(2.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月丘野 15-9	作生	盆	ナゲ	-	[5.0]	(3.0)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月丘野 15-10	作生	盆	ナゲ	-	[5.0]	(3.0)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ
5 月丘野 15-11	作生	盆	ナゲ	-	[5.0]	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内・外・底輪(10186.2)~ 1.5185.2)	ナゲ	ナゲ	ナゲ

第3表 出土遺物觀察表（石製品）

法者( )は現行値である。

通称名	学名	近縁種名	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
木製柱	木製柱	15-7	不耐T	松原材	3.7	(4.6)	0.5	13	削仄(No.0)

## 第4章　まとめ

### 1. 藤井平における古墳時代の遺跡について

今回の発掘調査では、狹小な調査面積であったにもかかわらず、弥生時代の堅穴住居跡4軒、古墳時代前期の堅穴住居跡1軒、古墳時代後期の堅穴住居跡1軒が発見された。調査地点周辺には弥生時代から平安時代に至る遺構が濃密に分布していることを示しているものと考えられる。

上横屋遺跡は、今回の発掘調査も含め、これまでに3次にわたって発掘調査が実施してきた。

第1次調査においては、弥生時代の堅穴住居跡6軒、古墳時代後期の堅穴住居跡14軒、平安時代の堅穴住居跡5軒などが調査されている（並崎市教育委員会ほか1999b）。遺構の各時期の分布状況をみると、古墳時代の住居跡が調査区の全体に広がっているに対し、弥生時代の遺構は南側に、平安時代遺構は北側に偏って分布する傾向にある。

第2次調査は、第1次調査地点の北側に隣接した地区において実施され、古墳時代後期の堅穴住居跡7軒、平安時代の堅穴住居跡6軒などが発見されている。古墳時代の住居が調査区の南西側に集中するのに対し、平安時代の堅穴住居群は北側にまとまって分布している。また、明確な弥生時代の遺構は確認できなかったが遺物が出土しており、調査区の南側に偏って分布していた。上横屋遺跡の北側地点では、弥生時代の遺構が南側の第1次調査地点に集中していることが想定される。

市域において、古墳時代前期の大集落遺跡として知られるのは坂井南遺跡である。100軒を越える堅穴住居跡とともに12基の方形周溝墓も発見されている。坂井南遺跡は、藤井平の西側河岸段丘上に位置しており、低地の藤井平においては古墳時代前期の遺跡は希少である。当該期の遺跡としてこれまでに、立石遺跡、後田遺跡、宮ノ前第1遺跡などで調査例があるが、遺構としては希薄なあり方を示す。今回の発掘調査でも1軒ではあるが当該期の堅穴住居跡が発見され、これまで発見された遺跡の中では、最も南側に位置する。当該期の集落は、本遺跡から北側の地区に分布する傾向が指摘できる。

藤井平における古墳時代中期の調査例はさらに少なく、枇杷塚遺跡から、古墳時代中期の住居跡が1軒発見されているに過ぎない。枇杷塚遺跡は、上横屋遺跡の南西、下横屋遺跡の東側に位置し、藤井平の遺跡群においても南端に占地する。

三宮地遺跡内に所在する火雨塚古墳は、「火の雨塚」などとも呼ばれている。現在墳丘は失われており、石室の一部が残るだけであるが、現在市域で唯一残る古墳である。

地元の言い伝えによれば、富士山が噴火した際に降り注ぐ火の雨を避けるために造られた石室の一つであったという（並崎市教育委員会ほか1996c）。この伝承から、かつては周辺に多くの古墳が存在し、群集墳を形成していたことが想定されている。

火雨塚古墳に隣接する三宮地遺跡、北下條後田遺跡、後田遺跡では、古墳時代前期の遺構の調査例はあるが、後期の遺構の発見はこれまでの調査ではないことから、古墳時代後期において墓域と集落域がやや距離を置いて占地していた可能性も考えられる。

南北に大きな広がりをもつ集落域の西側に、古墳群が展開していたものと考えてよいであろう。

上横屋遺跡第1次調査1号住居跡内ならびにその周辺からは、金環2点が出土している。また、1号住居に隣接する1号土坑からは、青銅製鏡が出土している。県内において集落遺跡から金環が出土した例は、笛吹市八代町堀ノ内遺跡、北社市須玉町腰巻北遺跡などにあるが、極めて希少例である。青銅製鏡は、笛吹市八代町御崎古墳、同市御坂町長田1号墳など、県内で3古墳からの出土が知られているが、集落遺跡からの出土は初の例となった。

また、第2次調査においては、後期の堅穴住居より専用輪が2点出土しており、当該期において鍛冶を行っていたことなども明らかとなっている。

このような状況からも、古墳時代後期において本遺跡周辺が有力な地域であり、後期古墳群を造営した人々の集落であったことが想定される。

## 2. 石庖丁について

本調査の6号住居跡から、粘板岩製の石庖丁が1点出土している。

かつて山梨県内の石庖丁の集成をした時点で、弥生時代では8遺跡11例、古墳時代では2遺跡5例を数えた（山梨市2004）。その後、山梨市高畑遺跡からの出土もあり出土例は増えているものと思われるが希少例であることかわりはない。

並崎市内では、弥生時代の例として下横屋遺跡第1次調査、堂の前遺跡から、古墳時代前期の例として坂井南遺跡から2点出土しており、一地域の出土例としては多い。

下横屋遺跡例は、刃部は直線的に作られ、片刃に仕上げられており、背に近い部分の両端に抉りをもつものである。長野県下伊那地域、佐久地域に類似例がみられ、関係が注目される。

一方、堂の前遺跡例は、刃部は直線的で、背は弧状を呈する。背のほぼ中央に単孔がみられ、両側面から研磨している。

坂井南遺跡例のうち、1点は堂の前遺跡例に類似しており、刃部はやや内彎するものの、背は弧状を呈し、背の中央に単孔をもつ。もう1点は、方形基調の平面形態で、刃部も背も直線的である。背の中央よりややずれた所に単孔を穿つ。

本遺跡出土例は、半分ほどを欠損しており全体の形態を把握することは出来ないが、背部はやや弧状を呈するものの、方形基調で坂井南遺跡出土例に類似する。刃部は片刃に仕上げている。背に近い部分に単孔がみられ、おそらく背の中心部分にあたる位置だと思われる。

山梨市堀ノ内遺跡では、竪穴住居内より3点の石庖丁が出土しているが、3点とも両端に抉りをもち類似した形態を呈している。

市域の5例は、形態、装着方法などバラエティーに富んでおり、それぞれどのような系譜をたどってこの地に定着したのか、今後の調査成果によって次第に明らかにされることと思われる。

## 参考文献

- 大島正之 1999「石の道具（3）弥生時代」『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物） 山梨県
- 坂本美夫 1979「毛彌馬具の予察」『甲斐考古』16-2 山梨県考古学会
- 韮崎市教育委員会ほか 1985『中田小学校遺跡』  
1987『中本田遺跡 眺ノ前遺跡』  
1988『前田遺跡』  
1989『後田遺跡』  
1990『北後田遺跡』  
1991a『下横屋遺跡』  
1991b『北下条遺跡』  
1991c『宮ノ前第2遺跡 北堂地遺跡』  
1992a『上本田遺跡』  
1992b『宮ノ前遺跡』  
1993a『宮ノ前第3遺跡』  
1993b『山影遺跡』  
1994『立石遺跡』  
1995『宮ノ前第4遺跡』  
1996a『後田第2遺跡』  
1996b『枇杷塚遺跡』  
1996c『坂井堂ノ前遺跡』  
1997a『後田堂ノ前遺跡』  
1997b『宮ノ前5遺跡』  
1998『三宮地遺跡』
- 韮崎市教育委員会ほか 1999a『下木戸第2遺跡』  
1999b『上横屋遺跡』  
2001『下横屋第2遺跡』  
2003a『下横屋遺跡Ⅲ』  
2003b『下横屋遺跡Ⅳ』  
2005『下横屋遺跡第5地点』
- 野田昭人 1990「長田古墳群（1・2・3号墳）」『山梨考古』第31号 山梨県考古学協会
- 保坂康夫 2003「山梨県内の弥生石器の再検討」「弥生石器の再検討－器種・製作技術・石材」中部弥生時代研究会
- 八代町教育委員会 1996『堀ノ内遺跡』
- 山梨県 1998『山梨県史』資料編1 原始・古代1 考古（遺跡）
- 山梨県 1999『山梨県史』資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物）
- 山梨県考古学協会 1996『山梨考古』第60号
- 山梨市ほか 2004『堀ノ内遺跡』 山梨市文化財調査報告書 第7集
- 山梨市ほか 2005『高畠遺跡』 山梨市文化財調査報告書 第8集

## おわりに

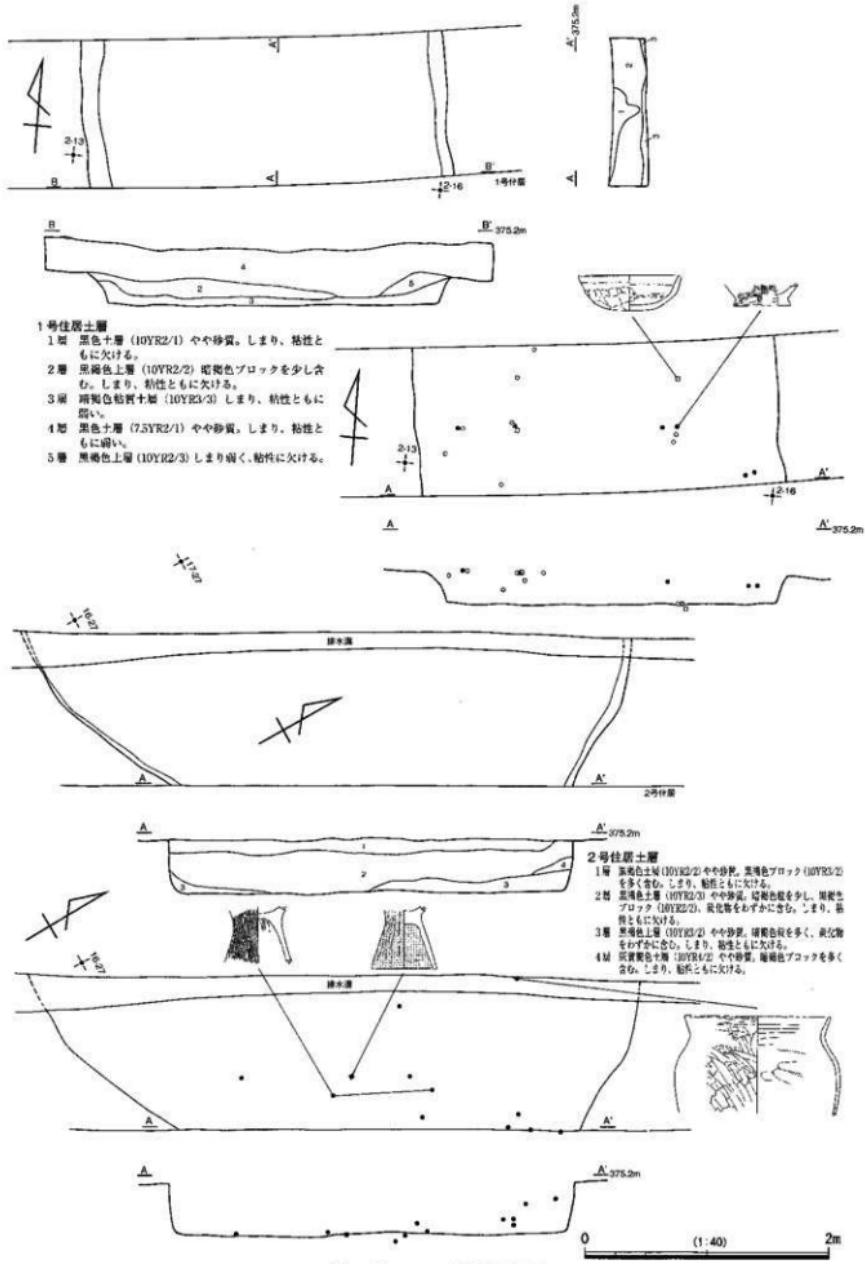
今回の上横屋遺跡の発掘調査は、宅地開発における道路部分や擁壁のみの調査であり、限られた情報しか得ることができない状況であった。

しかし、狭小な調査面積にもかかわらず、弥生時代後期から古墳時代後期にわたる竪穴住居跡が6軒も発見されたことは予想を超えた大きな成果であった。

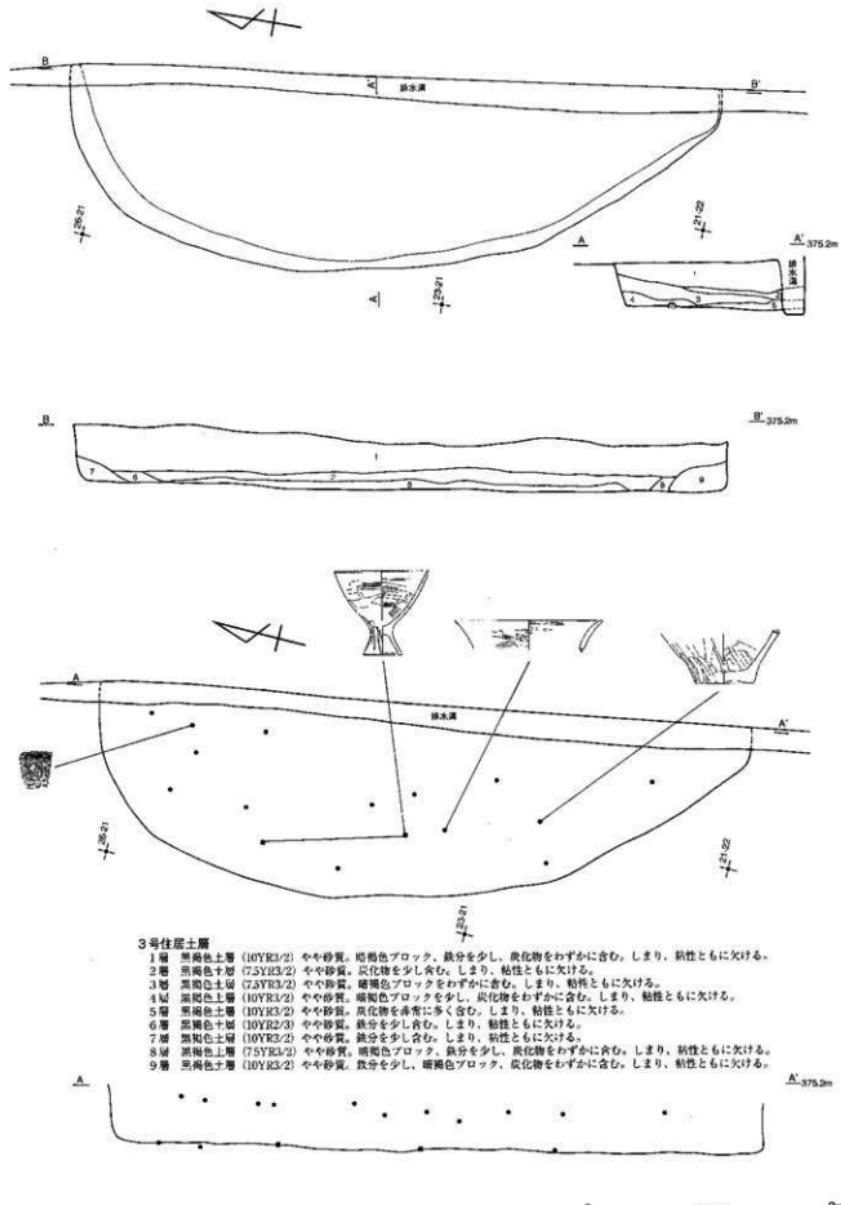
遺跡の発掘調査は8月下旬から9月上旬にかけて実施されたが、堰には水が流れ周辺の水田では溝面の水を湛えており、調査区内は湧水により浸水し、遺構内を水が流れるという状況であった。調査は困難を極め、調査区内に排水溝を設けるなどして調査に当たった。

必ずしも満足のいく調査結果とは言いがたいが、調査に参加された方々の努力により何とか調査を終了することができた。

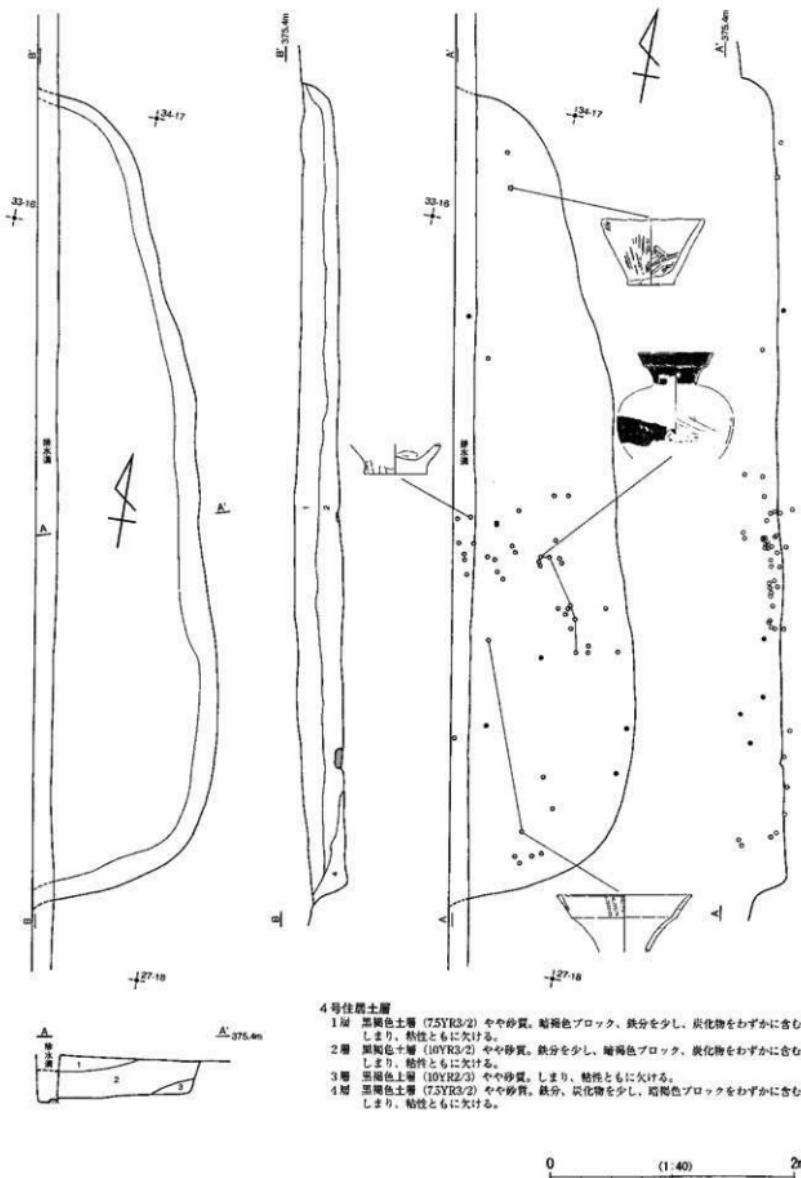
最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行に向けてご協力いただきました機関・各位、作業に従事していただいた方に改めてお礼申し上げます。



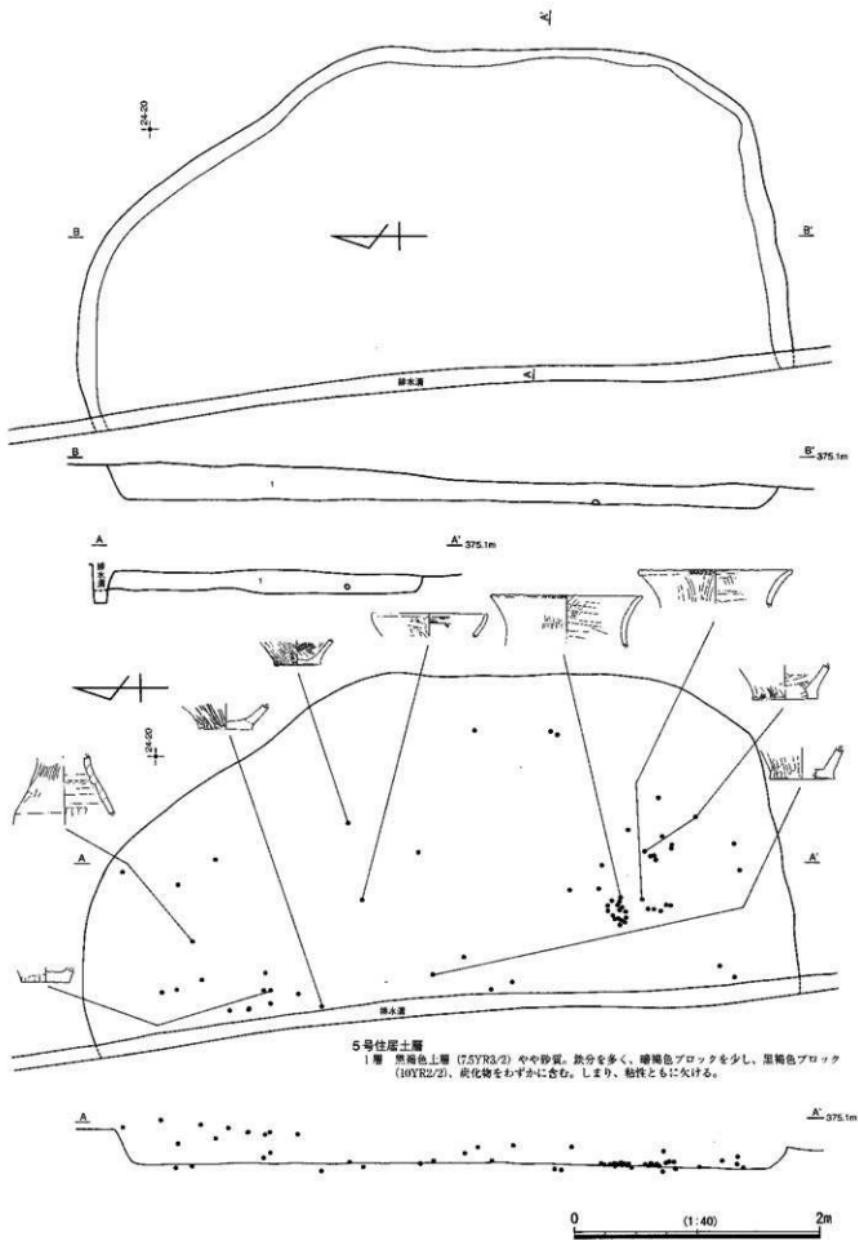
第5図 1・2号住居平面図



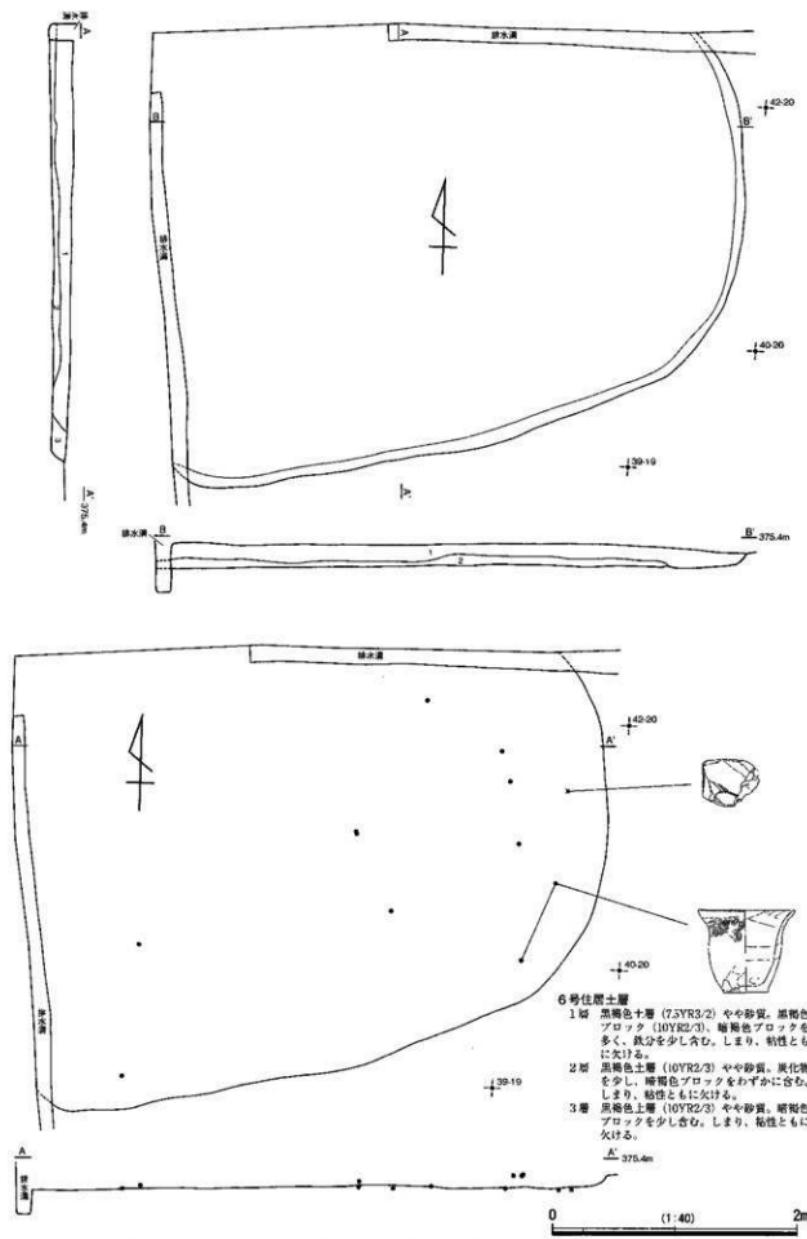
第6図 3号住居平面図



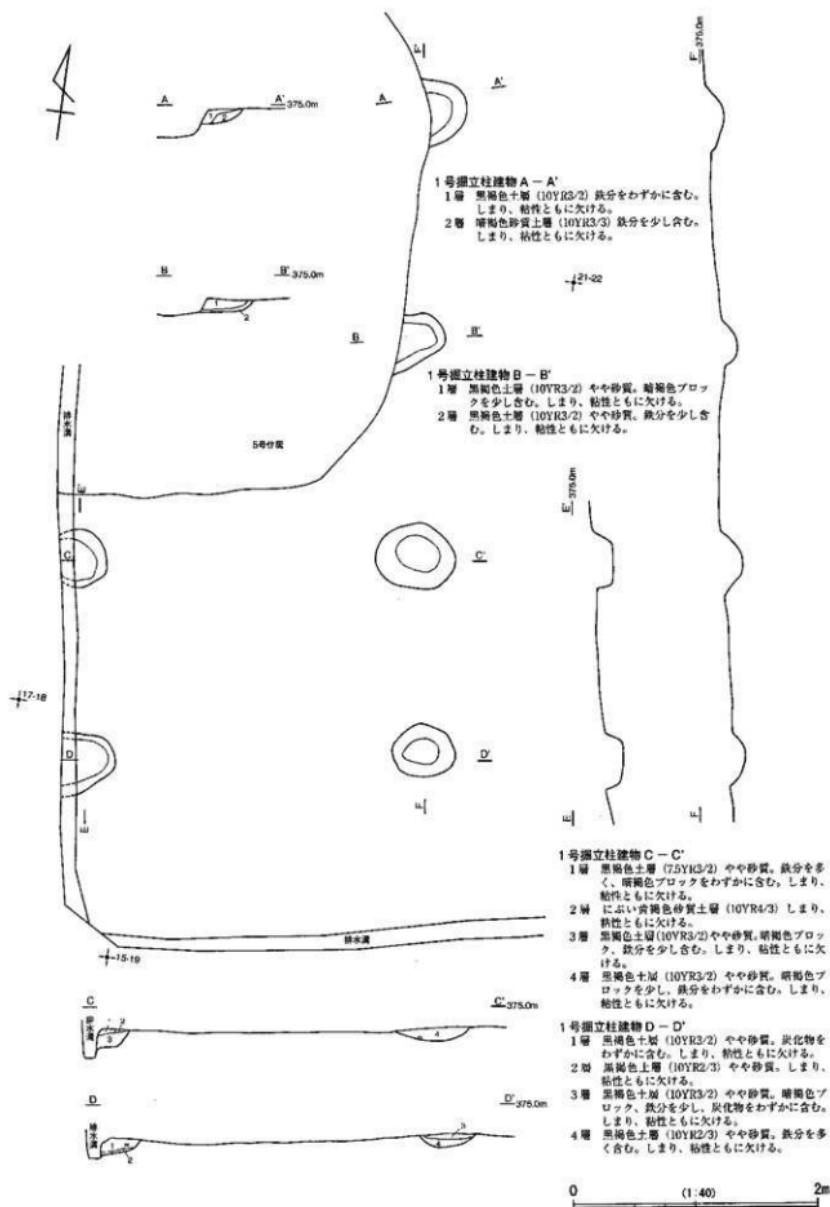
第7図 4号住居平面図



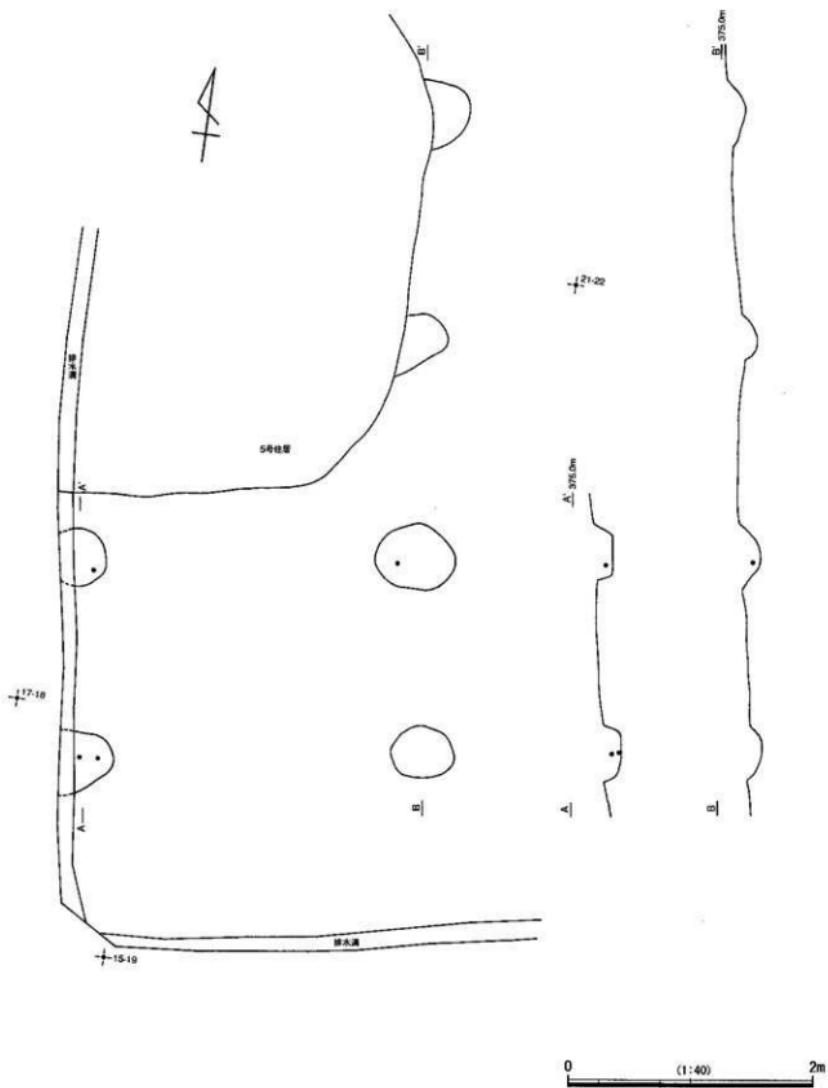
第8図 5号住居平面図



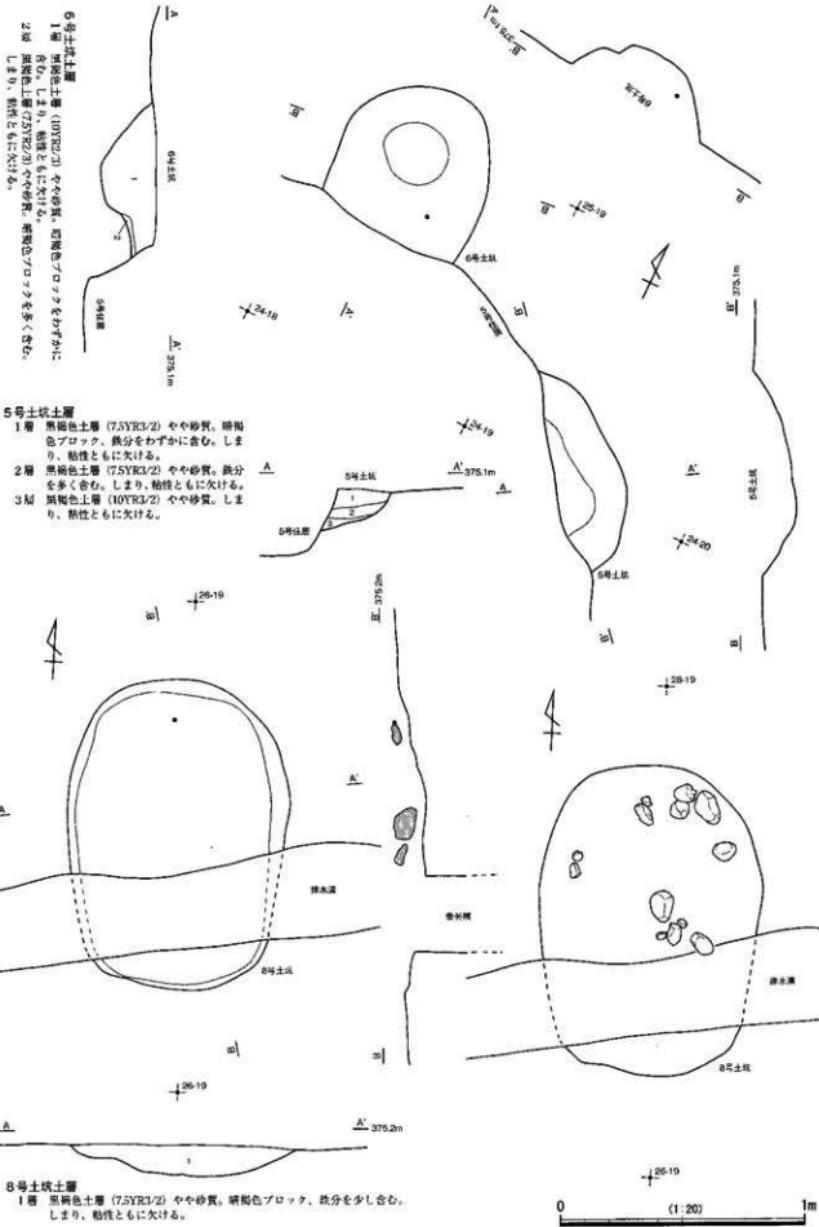
第9図 6号住居平面図



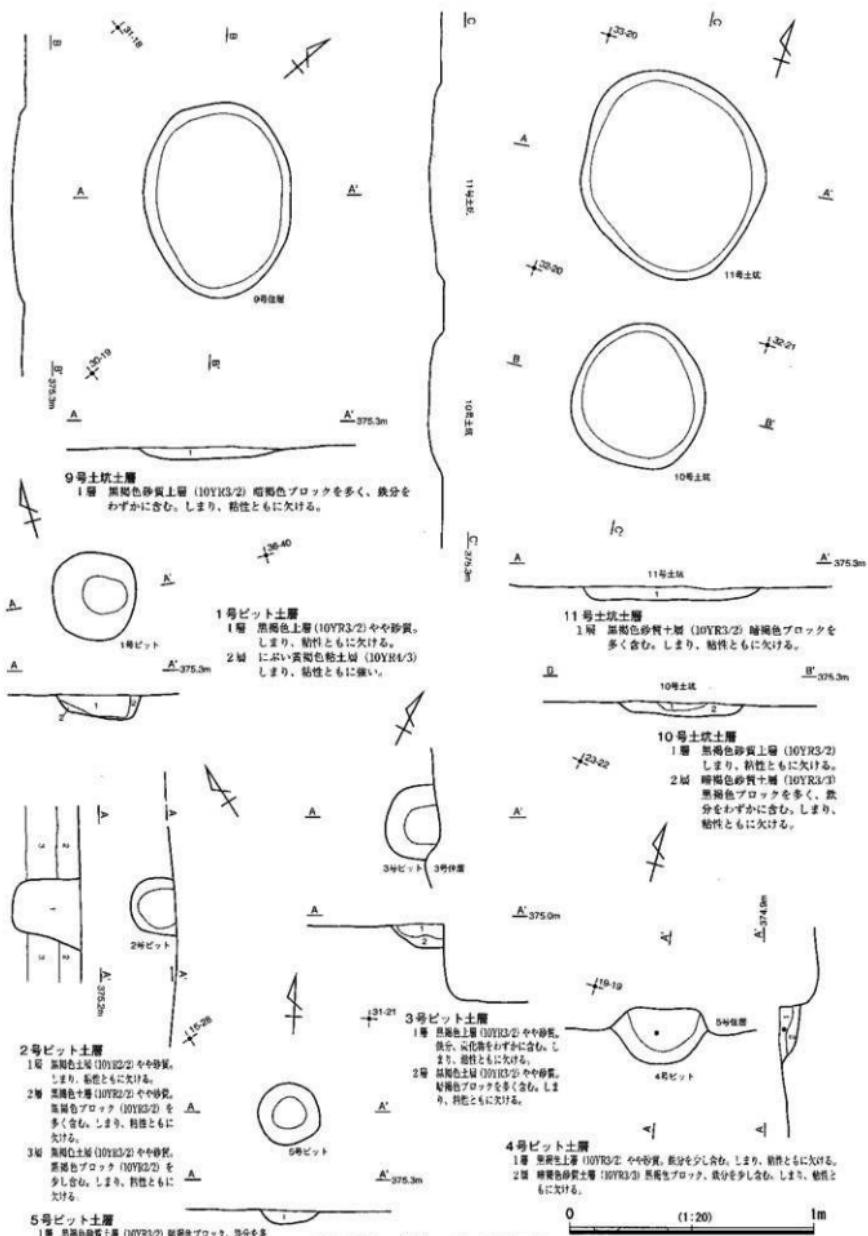
第10図 1号掘立柱建物平面図



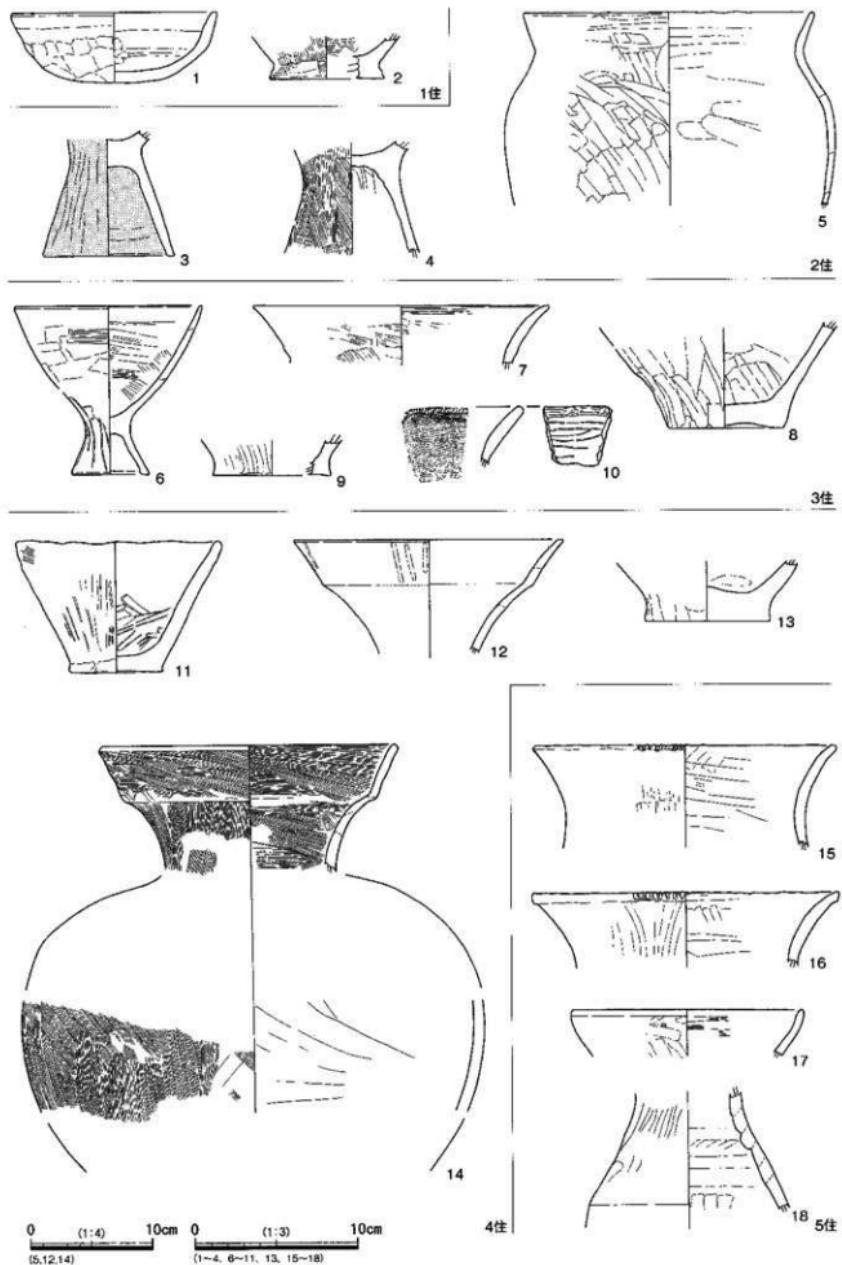
第11図 1号掘立柱建物遺物分布図



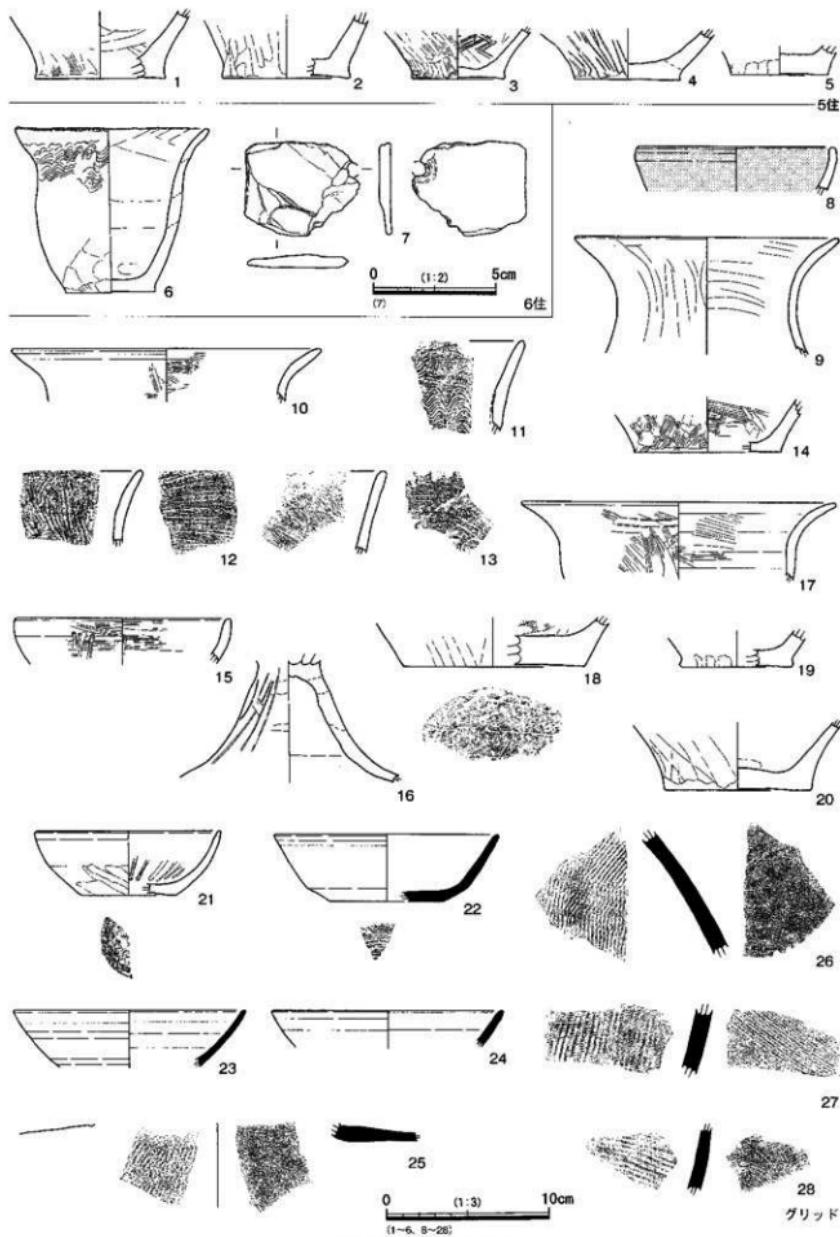
第12 国土坑平面図



第13図 土坑・ピット平面図



第14図 出土遺物(1)



第 15 図 出土遺物(2)



1 A区全景



2 1号住居



3 同 遺物出土状況(1)



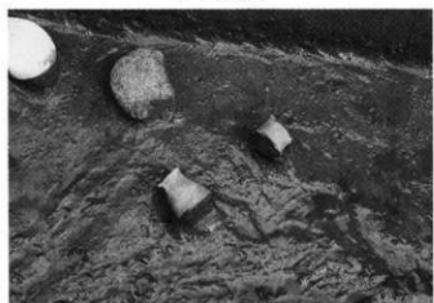
4 同(2)



5 2号住居



6 同 遺物出土状況(1)

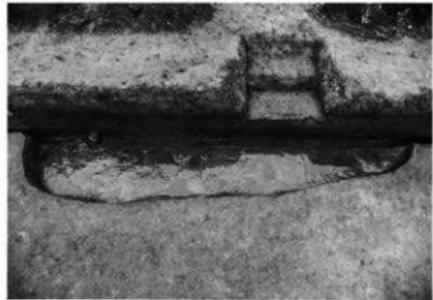


7 同(2)



8 3号住居

図版2



1 4号住居



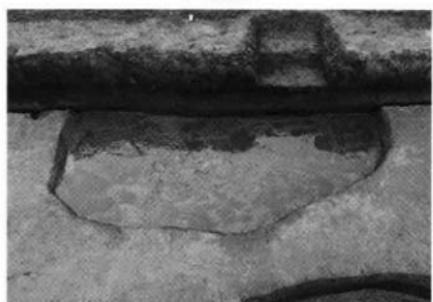
2 同 遺物出土状況(1)



3 同(2)



4 同(3)



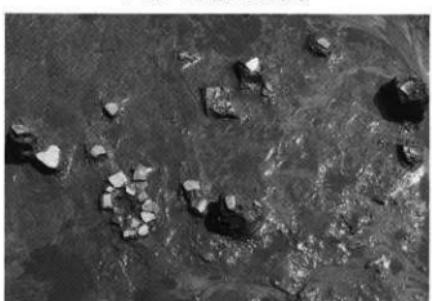
5 5号住居



6 同 遺物出土状況(1)



7 同(2)



8 同(3)



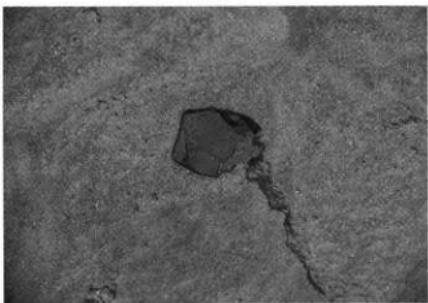
1 6号住居



2 同 遺物出土状況(1)



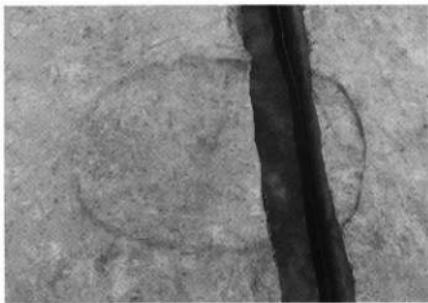
3 同(2)



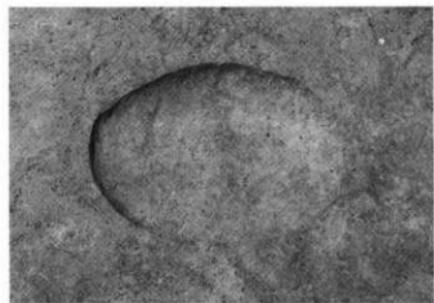
4 同(3)



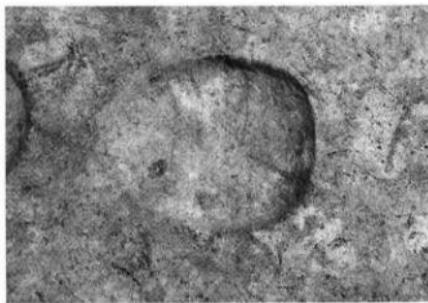
5 1号掘立柱建物



6 8号土坑



7 9号土坑

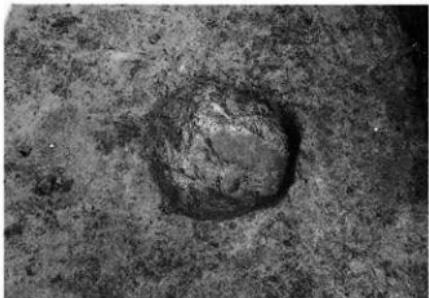


8 10号土坑

図版 4



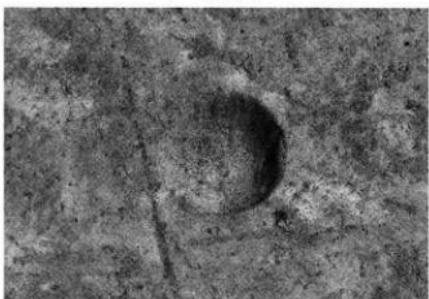
1 11号土坑



2 1号ピット



3 2号ピット



4 5号ピット



5 遺構検出作業



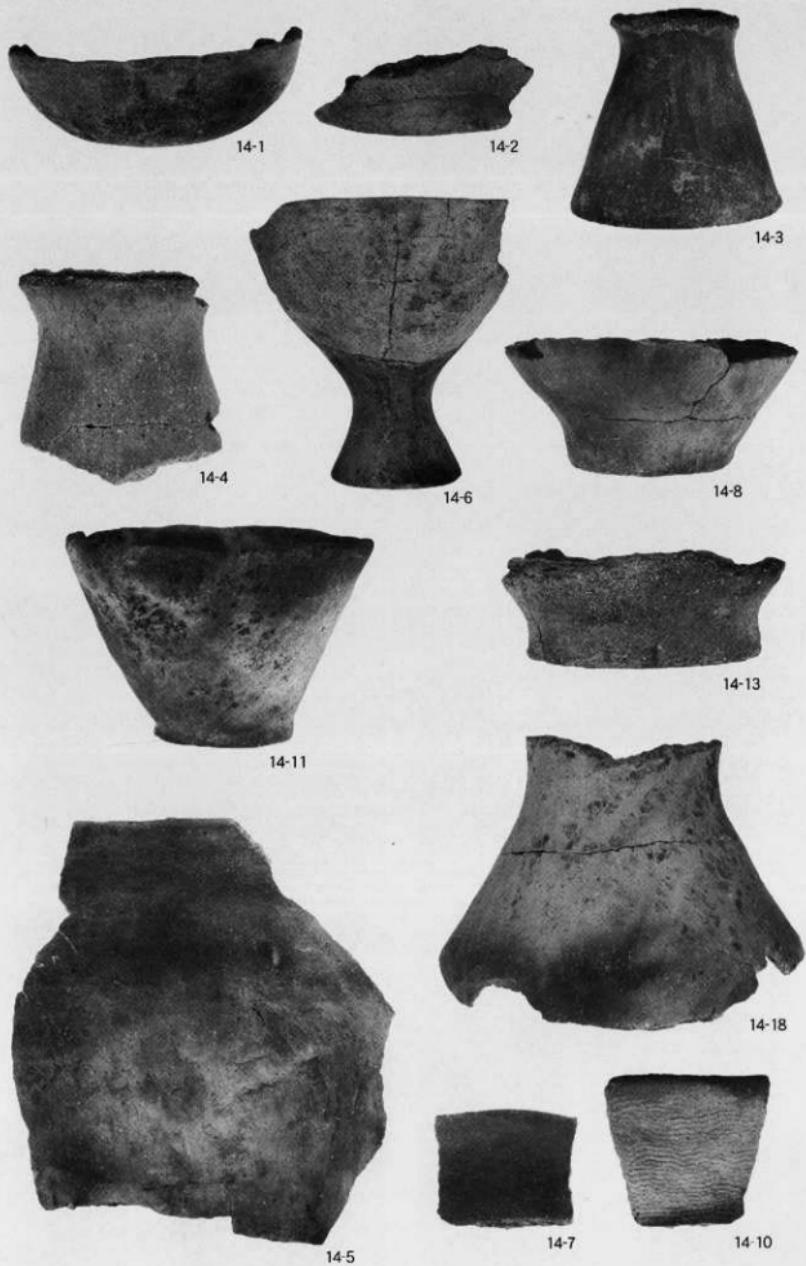
6 排水溝掘削作業



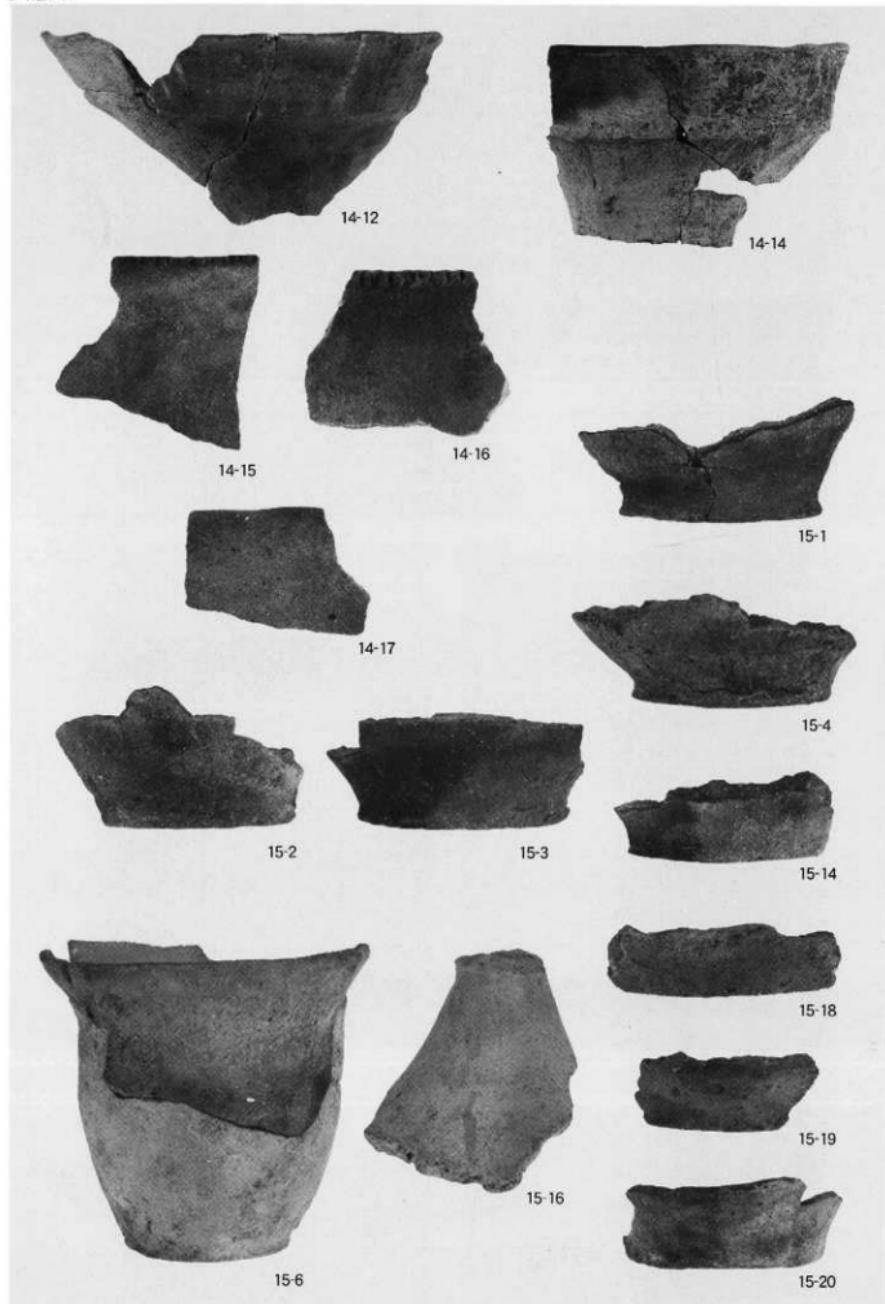
7 遺構調査状況(1)



8 同(2)



図版6



出土遺物(2)



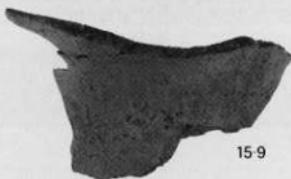
15-21



15-22



15-8



15-9



15-10



15-11



15-12



15-13



15-15



15-24



15-23



15-25



15-24



15-27



15-26



15-28



15-7

## 上横屋遺跡第3地点報告書抄録

ふりがな	かみよこやいせきだい3ちてん								
書名	上横屋遺跡第3地点								
副書名	藤井町北下条字上横屋433番地地点 宅地分譲地内道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
著者名	宮澤公雄								
発行者	韮崎市教育委員会								
編集機関	財団法人山梨文化財研究所								
住所・電話	〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441								
印刷日	2007年12月20日								
発行日	2007年12月30日								
所在地	山梨県韮崎市藤井町								
地図名	25,000分の1地形図 韮崎								
位置	北緯35度43分33秒、東経138度26分51秒								
標高	376m								
市町村コード	19207								
調査原因	宅地分譲地内における道路敷設								
調査期間	2006年8月10日～2006年9月11日								
調査面積	246m <sup>2</sup>								
遺跡概要	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">七な時代</td> <td style="padding: 2px;">弥生時代後期～平安時代</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">主な遺構</td> <td style="padding: 2px;">弥生時代後期住居4軒、古墳時代前期住居1軒、古墳代後期住居1軒、 獨立柱建物1棟、土坑6基、ピット5基</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">七な遺物</td> <td style="padding: 2px;">弥生時代後期・古墳時代前期・後期の土器</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">特殊遺物</td> <td style="padding: 2px;">弥生時代後期の石庖丁</td> </tr> </table>	七な時代	弥生時代後期～平安時代	主な遺構	弥生時代後期住居4軒、古墳時代前期住居1軒、古墳代後期住居1軒、 獨立柱建物1棟、土坑6基、ピット5基	七な遺物	弥生時代後期・古墳時代前期・後期の土器	特殊遺物	弥生時代後期の石庖丁
七な時代	弥生時代後期～平安時代								
主な遺構	弥生時代後期住居4軒、古墳時代前期住居1軒、古墳代後期住居1軒、 獨立柱建物1棟、土坑6基、ピット5基								
七な遺物	弥生時代後期・古墳時代前期・後期の土器								
特殊遺物	弥生時代後期の石庖丁								

## 上横屋遺跡第3地点

藤井町北下条字上横屋433番地地点

宅地分譲地内道路敷設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成19年12月30日 発行

編集・発行 韮崎市教育委員会

〒407-8501 山梨県韮崎市水神1-3-1 TEL. 0551-22-1111

財団法人山梨文化財研究所

〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL. 055-263-6441

